

## 特別支援学校の始業式・終業式での校長講話について —実践の省察—

河野 一郎\*

### I. はじめに

特別支援学校の各学期の始業式や終業式においては、必ず校長の講話やあいさつ（以下、校長の話とする）がある。教諭及び教頭としてのこれまでの筆者自身の経験から、校長の話は、子どもたちに語りかける形式がほとんどで、子どもたちが校長の話に興味・関心をもち、耳を傾け、校長の話す姿に注目し、その内容を理解することが本当にできているのか疑問をもち続けてきた。筆者は、平成21年度に初めて校長となり、筆者自身が校長の話を行う立場となった。

本稿は、これまで抱き続けてきたその疑問を踏まえ、平成21年度、22年度の2年間、山梨県立やまびこ支援学校（知的障害と肢体不自由が対象）で実践した校長の話を振り返り、特別支援学校における校長の話の内容や方法の在り方について知見を得ようとするものである。

なお、校長の話の内容については片山（2010）を、教育課程上の位置付けや評価については澁谷（2011）を参考にした。

### II. 平成21年度の実践

#### 1. 1学期始業式

新任の校長なので自己紹介をまず行い、次に子どもたちに毎日、元気に過ごしてほしいこと、そのためにはたくさん体を動かして健康になること、さらには、好き嫌いなく何でも食べて丈夫な体作りをしよう、早寝・早起きを心がけようと呼びかけた。以上の内容は言葉だけによるものであったので、どれだけ子どもたちに伝わり、心に響いたか心配になった。これまで自身が校長の話に関して抱き続けてきた疑問を自ら実感して、反省することになった。

---

\* 山梨県立甲府支援学校

## 2. 1学期終業式

1学期始業式の反省を踏まえて、スライドという視覚的な手がかりを使用して、子どもたちが校長の話の内容をより理解できるよう工夫を行った。

### (1) 校長の話の実際

1学期に行った全校行事や各学部及び寄宿舎の行事を、スライドを使用して振り返った。各学部の行事について、子どもたちにとって他の学部の行事は見る機会が少ないので、子どもたちは感嘆の声をあげながら画面を食い入るように眺めていた。

次に、1学期の終業式で定番と思われる、夏休みの過ごし方について次のようなスライド(図1参照)を使用して話をした。スライドの作成に当たっては、絵を入れること及び文字数は少なく、かつ、大きくすることにした。キーワードには読仮名を付けた。

<p>夏休みにまもってほしいこと</p> 	<p>規則(きそく)正しい生活</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 早ね、早おき、朝ごはん</li></ul> 
<p>運動(うんどう)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ラジオ体操</li><li>○ プール</li><li>○ 水あそび</li></ul> 	<p>正(ただ)しい食生活</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 好き嫌いなく食べる</li><li>○ 食べ過ぎない。飲み過ぎない。<ul style="list-style-type: none"><li>・ 特に甘いものは、注意</li></ul></li><li>○ 飲むのは、水、お茶、牛乳</li></ul> 
<p>勉強(べんきょう)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 宿題をする</li><li>○ 本を読む</li><li>○ 自分の好きなテーマで勉強</li></ul> 	<p>自分でできることを増やす</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 自分のことは自分でするよ に心がける</li><li>○ 家のてつだいをする</li></ul> 

※次頁に図1続く

※前頁からの図1続き

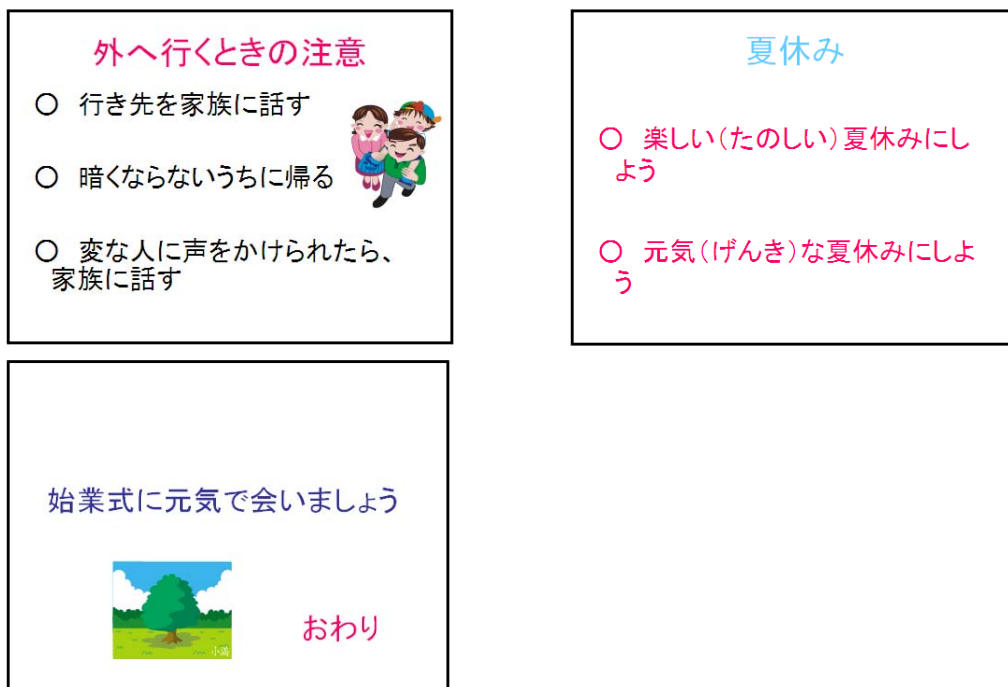


図1 平成21年度1学期終業式で使用したスライド

## (2) 評価や課題

子どもたちはスライドを見ることで、夏休みの過ごし方についてのイメージをもつことができたと思われる。終業式後の学級指導でも、夏休みの過ごし方についての内容が話される。その際、校長の話の内容の肉付けや、さらなる具体的な行動目標についての話がされることを期待した。

## 3. 2学期始業式

### (1) 校長の話の実際

1学期の終業式でスライドを使用して説明した「夏休みに守ってほしいこと」が、守れたか、どうかについて、振り返る内容とした。スライドは1学期の終業式で使用したスライドにチェック [○・△・×] を入れるイメージにした。

次に、2学期の主要な行事を伝えることで学校生活に見通しをもたせること、元気に毎日登校し健康で過ごすこと、インフルエンザに注意することを設定した。使用したスライド(図2参照)は次のとおりである(一部省略)。

<p><b>規則(きそく)正しい生活</b></p> <p>チェック(○ △ ×)</p> <p><input type="checkbox"/> 早ね</p> <p><input type="checkbox"/> 早おき</p> <p><input type="checkbox"/> 朝ごはん</p> 	<p><b>運動(うんどう)</b></p> <p>チェック(○ △ ×)</p> <p><input type="checkbox"/> ラジオ体操</p> <p><input type="checkbox"/> プール</p> <p><input type="checkbox"/> 水あそび</p> 
<p><b>正(ただ)しい食生活</b></p> <p>チェック(○ △ ×)</p> <p><input type="checkbox"/> 好き嫌いなく食べる</p> <p><input type="checkbox"/> 食べ過ぎない。飲み過ぎない。 ・特に甘いものは、注意</p> <p><input type="checkbox"/> 飲むのは、水、お茶、牛乳</p> 	<p><b>自分でできることをふやす</b></p> <p>チェック(○ △ ×)</p> <p><input type="checkbox"/> 自分のことは自分でする</p> <p><input type="checkbox"/> 家のてつだいをする</p> 
<p><b>夏休み</b></p> <p>チェック(○ △ ×)</p> <p><input type="checkbox"/> 楽しい(たのしい)夏休みでしたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 元気(げんき)な夏休みでしたか？</p>	<p><b>今日から2学期です</b></p> <p><b>2学期の行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9月 小学部:秋の遠足 宿泊学習</li> <li>・ 10月 やまびこまつり 中学部:修学旅行</li> </ul> 
<p><b>2学期の目標をもとう</b></p> <p><input type="checkbox"/> やまびこまつりの演技をがんばる</p> <p><input type="checkbox"/> やまびこまつりの作品づくりを がんばる</p>  	<p><b>インフルエンザに注意</b></p> <p><input type="checkbox"/> 手洗いをしっかりしましょう</p> 

図2 平成21年度2学期始業式で使用したスライドの一部

## (2) 評価や課題

1学期の終業式で使用したスライドを元に夏休みの生活を振り返る内容であったので、

子どもたちにとっては、分かりやすいものであったと考えられる。課題としては、画面上の□印部分に〔○・△・×〕を実際に入れて、イメージをはっきりもたせた方が効果的であること、子どもたちにスライドと同一内容のプリントを渡して、〔○・△・×〕を実際に記入させること、或いは子どもたちに〔○・△・×〕のカードを挙げさせるなどして、より明確に夏休みの生活を反省させることなどが考えられる。

2学期の行事の説明に絵を使用したのが、昨年度の写真の方がよかったかもしれない。

さらには、2学期の目標をもつことに関して、各学級でも同様の内容の学習があるので、それと関連付けるために、教諭らとの事前の十分な話し合いが必要であったかもしれない。

## 4. 2学期終業式

### (1) 校長の話の実際

2学期に実施した様々な行事を、スライドにより振り返ることとした。各行事のスライドは時間の関係や子どもたちの集中度を考慮して1, 2枚とした。

次に、お正月の遊びについて以下のような順序と内容を扱った。

- ① 滝廉太郎作曲「お正月」を歌う。お正月が来ることへの期待感をふくらませ、ワクワクするような楽しい活動が待ちかまえているという思いを抱いてもらうために、全員で歌った。
- ② 模擬凧揚げの活動を見る。室内で凧揚げの様子を見てもらうため、教務主任が工夫して作った凧を使用し、校長と教務主任が協働で会場内をぐるぐる回って揚げた。
- ③ はねつきを見る。教務部の二人の女性職員が着物を着て、はねつきの場面を演出した。
- ④ カルタを見る。カルタを子どもたちに見せて、紹介した。
- ⑤ こま回しを見る。教務主任及びこま回しを得意とする職員が実際にこまを回して、子どもたちに見せた。

### (2) 評価や課題

お正月の歌は予想していた以上に子どもたちは知っていて、元気で明るく大きな歌声が聞こえてきた。凧揚げの場面では、子どもたちは歓声をあげ、凧が揚ったり動いたりする様子にじっと見入っていた。はねつきは、職員が着物で登場したとき、普段あまり目にしない衣装であったので興味津々の様子が手に取るように感じられた。こま回しについても実際にこまが回る様子を、楽しげに見ていた。

お正月の遊びを紹介するというねらいは、実際の活動を見てもらうことで達成できたと考えられるが、子どもたちが主体的に参加するという観点で振り返ると、不十分な内容であった。例えば、子どもたちの代表に凧揚げやはねつきなどをやってもらい、体験する場面を設けることも考えられた。

## 5. 3学期始業式

### (1) 校長の話の実際

- ① 宮城道雄作曲の「春の海」を鑑賞する。「春の海」の冒頭から3分ぐらいまでを聴かせ、解説を行って、正月の海のイメージをもたせるようにした。
- ② 獅子舞に関する絵本をOHPにより拡大して見せ、読み聞かせを行って、獅子に頭を噛んでもらえばよいことがあるということを説明し、獅子舞への興味・関心をもたせるようにした。読み聞かせが終了した時点で、お囃子の音楽をかけ、「いったい何が始まるのだろう」との期待感をもたせた上で、教務部員が扮した獅子が登場し、獅子は子どもたちの中に入りおもしろおかしく舞いながら、数人の子どもの頭部を噛んで、退場した。
- ③ 大型の竹馬に教務主任が乗り、子どもたちの周囲を回った。その後、代表の子どもが竹馬に乗る体験を行った。

### (2) 評価や課題

「春の海」は正月の定番曲の一つなので、既に知っている子どもたちも数多くおり、じつと聞き入っていた。正月の海の、のどかな様子を感じ、イメージすることができたと考える。

獅子舞は、どの子どもも食い入るように見つめていた。頭を噛んでもらった子どもは喜びを全身で表現していた。一方、得体の知れないものとして恐がって泣き出す子どももいた。

竹馬は、子どもたちにとって大変珍しい乗り物となっている。これまでに体験した子どもたちもごくわずかであろう。教務主任が巧みに操作しながら乗る様子をどの子どもも感激しながら見ていた。実際に竹馬体験をしたのは代表の子どもだけではあったが、貴重な体験となったことであろう。

獅子舞といい竹馬といい、現代ではほとんど体験できなくなってしまったものであるが、子どもたちは好印象で迎えることができたと感じられた。竹馬については、「冬の遊び」という単元を設定し、実際に竹馬を製作し体験することができるよう、教職員に期待を込めた演出であった。

## Ⅲ. 平成22年度の実践

### 1. 1学期終業式

#### (1) 校長の話の実際

夏休みが明日から始まるという終業式の日にあたって、夏休み中の望ましい過ごし方を理解し、実践してみようという気持ちになってもらうために、〇×クイズを行った。夏休みの生活や学習場面のスライドを用意する。その際、適切な内容と不適切な内容を取り混

ぜ、それぞれの内容が良いか、悪いかを [○・×] のカードを挙げることで意思表示するというものである。

それぞれのスライドについて、正しい内容については、大きな赤い○印を画面上に表示し、間違っている内容については、同じく×印で表示した。使用したスライド（図3参照）は次のとおりである（一部省略）。



図3 平成22年度1学期終業式で使用したスライドの一部

## (2) 評価や課題

○×クイズを初めて取り入れ、夏休みの望ましい生活について考えさせた。子どもたちにとって難易度の低い内容としたため、ほとんどの子どもたちが、正解の [○] や [×] を挙げていた。特に高等部段階の生徒にとっては簡単すぎて物足りない内容であると思われたが、どの生徒も興味・関心を示して参加した。テレビで○×クイズを見ていて、この形式になじみがあるのだろう、会場が子どもたちの歓声で包まれた終業式となった。

## 2. 2学期始業式

### (1) 校長の話の実際

1学期の終業式で使用したスライドを再登場させて、実際の夏休みの生活や学習の様子はどうか、振り返る活動をさせた。使用したスライド（図4参照）は次のとおりである（一部省略）。



図4 平成22年度2学期始業式で使用したスライドの一部

次に、2学期の行事や学習内容をスライドにより理解する内容である。特筆すべき行事として、著名な交響楽団の演奏会があるので、その演奏曲目の中から1曲（ドヴォルザークのスラヴ舞曲集作品72第10番ホ短調の一部）を選択して、子どもたちに聴かせた。高等部のある生徒に曲を聴いての感想を聞いたところ「微妙」という返事が返ってきた。

## (2) 評価や課題

夏休みを振り返る活動では、1学期の終業式で使用したスライドを映したため、その内容を覚えている子どもたちもいて、振り返り活動がスムーズにできたと思われる。

また、2学期の行事の細かい内容を知り、目標を立てる活動は、実際には各学級の取組となる。学級の壁に貼られた目標を見る機会があったが、スライドの内容とのつながりを確認することが不十分であった。

さらには、「微妙」と発言していた生徒に、実際、その交響楽団の演奏を聴いての感想を聞きたいと思っていたが、とうとう聞かずじまいになってしまったのが大きな反省である。

## 3. 2学期終業式

### (1) 校長の話の実際

昨年度の終業式では、正月の遊びを主要な内容とした。今回は子どもたちの家庭生活により近い内容で、しかも教職員が寸劇を披露して、子どもたちによりリアルに感じてほしいという願いを込めることにした。

寸劇は、年末・年始の望ましい生活について、考えさせるものである。寸劇のあらすじと台本は、次のとおりである。

[あらすじ]

年末を迎えたある一家。お父さん、お母さん、兄弟姉妹5人の7人家族である。折しも家族全員で大掃除に取りかかるところ。しかし、長男だけは、ビデオをずっと見ていて掃除をしようしない。掃除が終わっておやつ時間。みんなでお汁粉を食べる。ところが長男のお汁粉の餅はみんなのより小さく、小豆もほんのわずかしが入っていない。掃除をさぼってビデオを見ていたことへのお母



さんの対応であることが分かり、長男は心を入れ替えて家族のために頑張ることを宣言する。

さて年が改まって、一年の目標を兄弟姉妹一人一人が考えて子どもたちに発表する。まずは長男から。三つの目標を立てるのだが、いずれも不適切な目標ばかり。子どもたちからは「違う、だめ」などの言葉が出てくる。そこで長男は、子どもたちに相談し、会話をしながら適切な目標を立て、みんなに発表し了承を得る。他の兄弟姉妹も子どもたちの前で目標を発表する。発表後、兄弟姉妹はお年玉をもらって大喜び。最後に長男が「新年になったら目標を立てること」、「目標については代表の友達に発表してもらおうこと」を話し、寸劇は終わる。

[台本（抜粋）]

○ ナレーター「ここは大月市富浜町宮谷にある小嶋家です。今、小嶋家では年末の大掃除で大忙しです」

※ 一家7人リビングルームでテーブルを囲み座っている。

○ お父さん「今日は大掃除で、忙しい、忙しい。子どもたちにも手伝ってもらおうとするか。な、母さん」

○ お母さん「そうですね。子どもたちも大きくなったので、やってもらいましょう」

○ お父さん「いちろう。いちろうは窓ふきをお願いしますよ」

○ いちろう「ええー。僕、掃除なんて大嫌い。かつたるいことはしたくないんだよな。今日は一日ビデオを見て過ごす計画なんだ。だから、掃除はできません」

○ お父さん「いちろう、何を言っているんだ。みんなでやれば早く終わってきれいになるんだよ」

○ いちろう「でも僕、疲れているからしたくないんだよ。まもるに頼んでみてよ」

…略…

○ ナレーター「こうして、それぞれの場所の掃除が始まりました。でも、いちろうはみんなが掃除している間ずっと、ビデオを見ていました。さて掃除が終わり、おやつです」

○ お母さん「みんな、お掃除もう終わりにしてください。みんな、よく頑張ってくれたので家中きれいになりました。ありがとう。みんなでお汁粉を食べましょう」

※ みんなリビングに集まる。

○ 子どもたち「わーい、お汁粉だ、お汁粉だ」

※ お母さんは、お父さんと子どもたちにお汁粉を配る。

でもいちろうのお餅はみんなより小さく、小豆もほんの少ししか入っていない。

○ いちろう「僕のおもち、こんなに小さいよー。そして、小豆がほんの少ししか入っていない。みんなと違うー」

○ お父さん「いちろう、どうしてだか考えてごらん」

○ いちろう「うーんと。うーんと。よく分かんない」

○ お父さん「まもる、りえ、はるか、まゆはどう思う」

- 弟、妹たち「だって、いちろう兄ちゃん、掃除さぼってずっとビデオを見ていたんだものー」
- お父さん「そうだね。今日は、大掃除の日。みんなで力を合わせて頑張って掃除をしているとき、いちろうは掃除をしないでビデオをずっと見ていたよね」
- いちろう「あっ、そうか。働かざる者、食うべからずということだね。お父さんがよく僕たちに言っている言葉だ。しまったー。僕、掃除さぼってしまったもんな。これからは気をつけます。だから、お母さん、大きいお餅にして。そして、小豆もたくさん入れて」
- お母さん「いちろう。今日だけはだめ。我慢しなさい。次からはしっかりやるのよ。分った」
- いちろう「今日ご免なさい。これからちゃんとお手伝いします」

…略…

- ナレーター「さて小嶋家では、家の中がピッカピッカになり、新しい年、平成23年を家族みんな健康で無事に迎えることができました」

…略…

- お父さん「さて、一年の計は元旦にありとあって、何事もまず初めに計画や目標を立てることが大切なんだよ。じゃあ、みんなの目標をこの紙に書いてみよう」

※ 子どもたちは、それぞれ目標を書く。

- お母さん「みんな、書けましたか。書けた人から発表してください」
- いちろう「じゃあ、僕から発表します。三つ目標を立てました。一つめは夜遅くまでテレビを見る、二つめは自分の好きなお肉をたくさん食べる、三つめは友達とけんかする。どう、いい目標でしょう」

- お母さん「えー。そうかなー。みんなに聞いてみてごらん」

- いちろう「みんな、僕の立てた目標三つともよい目標でしょう」

※ みんな：口々に「おかしい、間違っている」と言う。

- いちろう「そうかな。よい目標だと思ったんだけどな。やっぱだめだったか。じゃあみんな、どう直したらいいか教えてください」

※ いちろう：みんなとのやり取りの中で、よい考えをもらい修正して書き、発表する。

- いちろう「みんなありがとう。目標を書き直したので読むね。今度は大丈夫だと思います。一つめは夜は9時に寝る、二つめは嫌いな野菜を少しずつ食べる、三つめは友達と仲良く楽しく遊ぶで一す。今度はよいでしょう。」

※ みんな：賛成の声をあげる。

- お母さん「いちろうよかったね。みんなに見てもらって。きっとよい一年になるよ」

…略…

- いちろう「みんなも、新しい年になったら一年の目標を立ててね。3学期の始業式で代表の友達に聞きたいと思います。それじゃあみんな、元気でね。よい年を迎えてください」

…略…

## (2) 評価や課題

校長、教頭、教務主任、教務部員が寸劇を演じた。子どもたちにとって身近な教職員が出演したので、大きな拍手がわき起った。最後の場面の長男の発言は、3学期の始業式につながる意図があった。

この日の下校時、小学部のある男子児童が帰り際に筆者に言った言葉は、「いちろうくんはどうして掃除をしないの、悪い子。俺だったらちゃんとする」であった。また、中学部のある女子生徒の言葉は、「校長先生、劇、おもしろかったよ」であった。これらの言葉から、子どもたちが興味・関心をもち、愉快地に寸劇を見てくれたこと、また、自分自身の生活に照らしながら見てくれたことがうかがわれ、とてもうれしく感動した。

## 4. 3学期始業式

### (1) 校長の話の実際

一年の目標を子どもたちの代表3人が発表するとともに、1月から3月にかけての季節や行事（雪、高等部スキー・そり教室、節分、春、ひな祭り、卒業式、修了式）を歌、スライド等で体験するという内容である。その一部を次に掲載する。

- 校長 「皆さん、明けましておめでとうございます。新しい年、平成23年、2011年をみんな元気で迎えることができました。それではみんなで『一月一日』の歌を歌いましょう」
- 校長 「一年の計は元旦にありと言います。何事もまず初めに計画や目標を立てることが大切であるということです。それでは代表の友達に今年の目標や計画を発表してもらいます」  
※小学部・中学部・高等部の各代表一人が発表する。
- 校長 「皆さん、ありがとう。いい目標や計画ですね。でも、目標倒れや計画倒れにならないように気をつけましょう。今年一年、皆さんの目標や計画どおりに進むことを願っています」
- 校長 「さて皆さん、今日から3学期の勉強が始まります。3学期はとても短い学期です。あっという間に過ぎてしまいますよ。だから毎日を大切にしてください。それでは、これから3学期にどんな行事があるか、勉強しましょう」

…略…

### (2) 評価や課題

前半は、2学期の終業式の寸劇における長男の発言「みんなも、新しい年になったら一年の目標を立ててね。3学期の始業式で代表の友達に聞きたいと思います」に基づき、学部代表の子どもたちが、それぞれの年間目標を発表した。子どもたちが真剣に考え、身の

丈に合った目標が披露された。

後半は、歌やスライド及び節分の鬼の登場等により、3学期の行事に関して、見たり、聞いたり、歌ったりする等の活動だった。歌を歌うときには、必ずその内容にマッチしたペープサートやスライド及び学校行事の写真を提示した。また、節分の行事では、二人の鬼が登場し、「豆まきの歌」に合わせて、筆者自作の豆まきボックスを使用して福豆をまいた。

子どもたちはどの活動にも能動的にかかわり、3学期の行事等を疑似体験し、見通しがもてたことと思う。豆まきでは、実際に豆を食べてしまう子どもたちもいた。

#### IV. おわりに

校長の話について、2年間の実践を記述した。この中で次のような知見や課題が得られたので列挙する。

- ① 子どもたちの実態やニーズを踏まえた分かりやすい内容に心がける。
- ② 子どもたちが話を聞くだけの活動にとどまることなく、スライドや寸劇を見る、校長に語りかける、歌を歌う、カードを挙げるなどの能動的かつ具体的な活動を取り入れるなどして、子どもたちが主体的にかかわることができる内容であることに留意する。
- ③ 子どもたちが、「校長の話はおもしろかった。楽しかった。よく分かった」という印象や感想をもち、次回の校長の話に関して期待感をふくらませることができ、「また聞きたい。参加したい」という気持ちになれるような内容を工夫する必要がある。
- ④ 学級や学部での指導内容と関連付ける必要がある。
- ⑤ 校長の話は、校長自らが直接的・主体的に子どもたちにかかわり、創意工夫が可能な唯一の授業であると位置付けたい。そのため、評価に基づく改善が必要とされる。したがって、校長の話に対する子どもたちや保護者及び教職員からの評価を収集して、改善を図る必要がある。

さて、筆者は平成23年度、人事異動に伴い山梨県立甲府支援学校（肢体不自由が対象）に勤務している。以上のような知見や課題を踏まえ、校長の話を工夫・実践していきたいと考えている。

#### 文献

- 1) 片山鉄一（2010）校長講話12か月．月刊プリンシパル2010年1月増刊．学事出版．
- 2) 澁谷榮昭（2011）子どもがよるこぶ昔話講話．月刊プリンシパル2011年1月増刊．学事出版．